

石巻市環境基本計画の令和5年度実績の点検・評価について

はじめに

石巻市環境審議会は、令和6年7月の市長からの諮問に応じ、石巻市環境基本計画の令和5年度の目標達成状況、及びリーディング・プロジェクトの進行状況について点検・評価を実施した。

今回は、平成28年度に策定された石巻環境基本計画に基づく8回目の実施であり、点検・評価に当たっては、次の項目について関係部署等から資料の提供を求め、審議した。

その結果について、以下に示す。

- I 環境目標と環境指標（数値目標）の令和5年度実績
- II リーディング・プロジェクトの進捗状況
- III 石巻市環境基本計画の令和5年度実績点検・評価

I 環境目標と環境指標（数値目標）の令和5年度実績

1 総合評価

令和5年度については、評価をしないこととした7指標を除く38指標について点検し、5段階評価を実施した。

昨年度と比較して評価5は2増の14項目、評価4は1減の6項目、評価3は2増の15項目となり、評価3以上の項目は35項目であった。

評価1の項目は無く、評価2も昨年度より3減の3項目であり、全体的に評価が向上したと言える。分野ごとの評価に対する意見は以下で考察する。

なお、評価をしないこととした7指標は、市の取組が実績の数値に反映されづらいもの、目標達成済みのもの、今後も実績値が変動しないと見込まれるものである。

評価	R5	R4	増減
5	14	12	+2
4	6	7	-1
3	15	13	+2
2	3	6	-3
1	0	0	±0
評価対象外	7	7	±0
計	45	45	-

【5段階評価】

- 5：十分に取組まれている
- 4：かなり取組まれている
- 3：ある程度取組まれている
- 2：あまり取組まれていない
- 1：取組まれていない

2 分野ごとの評価に対する意見等

(1) 多様な自然との共生

①自然環境

「多くの自然や生物に恵まれている」といった自然環境の満足度は、70.3%と前年度同様目標を達成しているが、前年度比で6.2ポイントの減である。他の市民意識調査関連指標についてもポイントが減少している項目が多く、市民の評価が厳しくなっているように思われる。

「森林面積」は、目標は達成していないが、ほぼ現状を維持している。引き続き、補助制度等を活用して森林の適正管理に努められたい。

「農用地面積」は、目標を達成しているが、前年度比では200ha減となっている。農事法人の数が増えているなどの状況を活かして地域の特色に合った多様な農業の展開を図られたい。

「松くい虫対策事業による伐倒駆除率」は、前年度比 23 ポイント増の 99.3%となった。引き続き目標の 100%を目指し、松林の保全に努められたい。

「ニホンジカ捕獲数」は、前年度比 513 頭減の 2,470 頭であるが、目標は達成している。捕獲圧の継続により生息密度の低下が進んだためと思われる。引き続き、捕獲効率の向上と捕獲圧の維持に努められたい。

「間伐事業整備面積（国有林を除く）」は、417ha であり、目標を達成している。松くい虫被害は年度によりばらつきがあり令和 5 年度は被害が減少したため、前年度比では 374ha の減となった。引き続き、計画的な森林整備に努められたい。

②都市環境

「公園などの緑が豊かだ」といった都市環境の満足度は、52.7%と前年度同様目標を達成しているが、前年度比で 6.4 ポイントの減である。委員からは南浜震災復興祈念公園の緑化は評価するが道路などの緑化は進んでいるようには見えないとの意見があった。

「1人当たりの都市公園面積」は、公園の整備が進んだことから、15.8㎡となり、ほぼ目標達成となっている。遊具の定期検査・水はけの改善など安全・安心な公園の管理に努められたい。

③地域景観

「農地の緑が豊かだ」といった田園風景の満足度は、72.2%と前年度同様目標を達成しているが、前年度比で 5.3 ポイントの減である。委員からは復興事業により多くの農地が市街地となったこともあり、田園風景が遠くなった感じがするとの意見があった。農業振興と景観保全が両立するような施策を展開するとともに、市民への情報発信に努められたい。

「街並みが美しい」といった都市景観の満足度は、前年度比 3.2 ポイント減の 21.8%となった。市民の満足度が低いと認識し、地域景観の形成イメージを市民と共有できるようにして継続的・計画的な整備を進めるとともに、景観形成モデル地区の設定などにより市民の関心を高めることが必要なのではないか。

(2) 環境負荷の低減

①大気環境

「空気がきれいだ」といった大気環境の満足度は、前年度比 1.3 ポイント増の 59.2%であり、目標を達成していない。引き続き、環境基準の達成状況等について、市民への周知に努められたい。

「大気環境に係わる苦情処理割合」は、令和 5 年度中に発生した苦情について 100%処理できており、目標を達成している。引き続き、適切、迅速な処理に努められたい。

「航空機騒音の環境基準達成率」は、前年度と同じく 100%であり、目標を達成している。引き続き航空機騒音対策協議会による関係機関への航空機騒音低減の要望の実施などの対応を進められたい。

「自動車騒音の環境基準達成率（測定箇所平均達成率）」は、99.7%で目標を達成している。委員から年度によって測定区間が変わるため年度比較に適さないのではとの指摘があったため、検討されたい。

「EVの導入台数」は、累計で 14 台の導入があり、目標を達成している。今後は、市全体での普及についても検討されたい。

②水環境

「河川の水がきれいだ」といった水環境の満足度は、前年度比 2.4 ポイント減の 35.5%であり、目標を達成していない。アンケートの結果と河川の水質が環境基準を達成していることが乖離している。環境フェアなどのイベントや市報により水環境の健全性を伝えるなど、周知に努められたい。

「海の水がきれいだ」といった水環境の満足度は、前年度比 5.2 ポイント減の 38%であり、目標を達成していない。磯焼け対策、藻場再生などの取組を周知することにより、市民の海への関心が高まるよう努められたい。

「河川における BOD の環境基準達成率（達成箇所数）」は、前年度同様 7 箇所中 7 箇所であり、目標を達成している。引き続き監視を継続し、水質の保全に努められたい。

「海域における COD の環境基準達成率（達成箇所数）」は、20 箇所中 10 箇所と、昨年度から 2 箇所減となり、目標を達成していない。悪化した箇所は自然変動によるものと考えられるが、引き続き注視されたい。

「下水道処理区域の水洗化率」は、前年度比 0.67 ポイント増の 78.77%であり、目標は達成していないものの、順調に取り組まれているものと思料される。引き続き、普及率向上に努められたい。

③その他の環境負荷

「ダイオキシン類（大気）に係る環境基準達成率」は、前年度と同じく目標を達成している。引き続き、監視に努められたい。

(3) 循環型社会の構築

①廃棄物

「一般廃棄物の埋立処分量」は、前年度比 2,357 t 減の 4,572 t で、目標を達成している。焼却施設・し尿処理施設から排出された残渣の受入量が少なかったことにより、目標を達成しているが、2 市 1 町の廃棄物からの残渣量を算出しているため、指標の見直しも検討されたい。

「1 日 1 人当たりの生活系ごみ排出量」は、前年度比 43 g 減の 706 g であり、目標は達成していないが近づくことはできた。ごみ減量化・資源化の周知啓発活動の結果が表れたのかもしれない。目標達成に向け、民間の事業所との協働など新たな取組を検討されたい。

②リサイクル

「リサイクル率」は、前年比 0.3 ポイント増の 10.0%であるが、目標を達成していない。啓発活動の効果が十分に出ていないと思料される。令和 8 年 10 月からのプラスチックごみ分別回収開始に向けた周知の強化と、新たな啓発活動の検討・展開に努められたい。

「収集・直接搬入による資源化量」は、前年比 380 t 減の 4,395 t で、目標を達成していない。大規模小売店舗による資源物の回収量を反映することが難しいことは理解するが、実態把握は必要であると考え。今後も更なる資源化に向けた取組に努められたい。

「集団回収による資源化量」、「再生資源集団回収報奨金交付団体数」、「資源回収実施団体による実施回数」は、いずれも減少。大規模小売店舗による資源物回収の影響が考えられる。例年実施している町内会や子ども会、NPO 団体のほかに、新たな団体の自主的な参加を促すような取組に努められたい。

(4) 脱炭素社会の実現

①地球温暖化

「市域の二酸化炭素排出量」は、前年度比 17 千 t-CO₂ 減の 1,104 千 t-CO₂ で、目標を達成していない。昨年度の第 2 回審議会において本計画の基本目標 4 を「低炭素社会の実現」から「脱炭素社会の実現」に変更するにあたり、本指標の目標値も併せて 26%減から 46%減へと大幅な変更をしたためである。目標の達成は厳しいものがあるが、今後も二酸化炭素排出量削減に向けた取組の推進に努められたい。

「地球温暖化防止に関する普及啓発事業の実施回数」は、前年度同様の 2 回実施であり、目標を達成していない。環境関連以外のイベントとの連携も含め、できるだけ多くの普及啓発の機会をとらえ、市民意識の向上に努められたい。

「雨水利用タンク普及促進事業補助金交付件数」は、前年度比 17 件増の累計 279 件であるが、計画期間内での目標達成は困難となっている。事業の周知不足と考えられるので、民間事業者との連携など新たな周知方法を検討されたい。

②エネルギー

「太陽光発電システム年間発電量（補助対象分累計）」は前年度比 835 千 kWh 増の 22,202 千 kWh、「太陽光発電システム補助件数」は前年度比 136 件増の 4,337 件となったが、いずれも計画期間内での目標達成は困難となっている。全体的に事業の見直しが必要な時期に来ていると考えられる。

「蓄電池補助件数」は、昨年度比 189 件増の 1,135 件（累計）で、令和 5 年度で目標を達成した。引き続き推進されたい。

「HEMS（家庭用エネルギー管理システム）補助件数」は、前年度比 33 件増の 549 件（累計）であるが、計画期間内での目標達成は困難となっている。全体的に事業の見直しが必要な時期に来ていると考えられる。

(5) 環境市民の育成

①環境教育

「環境市民育成講座受講者数」は、前年度比 1 人増の 92 人であり、目標を達成している。市民の関心に即した講座内容を加えるなど、より市民が参加しやすい講座への改善に努められたい。

「こどもエコクラブの加入グループ数」は、前年度比 1 団体増の 6 団体で、計画期間内での目標達成は困難となっている。こどもたちが関心を持つようなイベントの実施、放課後児童クラブへの働きかけの強化など団体数増加につながる取組を検討されたい。

②環境保全活動

「花いっぱい運動参加団体数」は前年度比 5 団体増の 143 団体であり、目標まであと少しとなった。若い年代が参加できるような工夫にも努められたい。

II リーディング・プロジェクトの進捗状況

1 生物多様性地域戦略推進事業（令和3年度から）

調査、イベント・啓発のための講座の実施、補助金の交付、施設の運営・管理などが主な事業となっているが、具体的な自然環境の保全に取り組む事業は少ない印象を受ける。クマの市街地への出現、海水温の上昇による漁業への悪影響などの自然環境へのマイナス要因を明確化したうえで、具体的な保護又は保全すべき自然環境の抽出などについても視野を広げた施策が必要である。

また、調査結果や講座の内容はホームページなどで発信し、市民への周知や啓発に努められたい。

2 航空機騒音対策事業（平成28年度から）

昨年度から評価対象から除外している。

3 ごみ減量化推進事業（平成28年度から）

モデル地区でのプラスチックごみの分別収集の実証事業を行うなど、プラスチックごみの分別収集の実施に向けて着実に進んでいることは評価したい。

「1日1人当たりの生活系ごみ排出量」、「収集・直接搬入による資源化量」は前年度比減となった。これは、大規模小売店舗での資源物回収等が盛んとなっている影響が考えられる。今後、これらの活動と連携し、「ごみ減量化」を根本的に考え直す必要がある。

4 再生可能エネルギー導入推進事業（平成28年度から）

昨年度に本計画の基本目標4を「低炭素社会の実現」から「脱炭素社会の実現」に変更するにあたり、指標「市域の二酸化炭素排出量」の目標値も併せて26%減から46%減へと大幅に変更されたが、関連する太陽光発電システム、蓄電池システム、HEMSの各補助事業の内容は変更されていない。

「脱炭素社会の実現」という困難な目標を達成するためには、関係事業を根本的に見直し、全体として効果的な事業にすることが求められていると考える。

5 環境教育モデル形成事業（平成28年度から）

環境教育モデル形成事業が着手されないままに計画期間が終了しそうなことは大変残念である。次期計画に向けて、「環境教育等による環境保全の促進に関する法律」第8条に則るとともに、「宮城県環境教育基本方針」を順守し、行動計画に関する協議を開始されたい。